

本号の岩手医大歯学会雑誌から

この頁は……

本号に掲載されている論文の内容を手っとり早く把握して頂き、歯科臨床との関わりを紹介する頁です。各論文の指導教授あるいは、これに準じる方に紹介の労をとっていただきました。本号のもう一つの目次として御利用下さい。

固形飼料ならびに粉末飼料飼育ラットの咀嚼筋機能および下顎枝の成長に関する研究

添野 一 樹

軟食による咀嚼機能の低下が顎発育に及ぼす影響を検討する目的で、固形飼料ならびに粉末飼料で飼育したラットについて、咀嚼筋内クレアチンキナーゼ (CK) 活性、下顎枝形態、および下顎枝内部構造を比較検討した。その結果、CK 活性は粉末飼料群で経日的に機能の低下を示唆する所見が認められた。また、下顎枝においては骨の代謝の低下が示唆され、このような現象は幼弱な顎骨に対し、比較的短期間に形態変化として反映し、その後の成長過程においても持続するものと考えられる。

(本号 1 頁) (石川富士郎記)

◆ ◆ ◆ マウス自然発生癌の腫瘍内浸潤リンパ球に関する研究

高橋 衛

近交系 WHT/Ht マウス由来自然発生扁平上皮癌の免疫、非免疫マウスの腫瘍内浸潤リンパ球 (TIL) の生物活性について比較検討した。腫瘍を拒絶する免疫マウスの腫瘍組織内には、S-Ig⁺, Mac-1⁺, asialo GM 1⁺細胞の著明な浸潤が認められた。免疫マウスの TIL は、自己腫瘍細胞に対して、細胞傷害活性、NK 活性、および ADCC 活性を示した。非免疫マウスでは、腫瘍は増殖し続け腫瘍死するが、TIL の浸潤に乏しく、その subset は Lyt-1⁺, L3T4⁺細胞が優位であり、自己腫瘍細胞に対して傷害活性は示さなかった。

(本号 16 頁) (関山三郎記)

◆ ◆ ◆ ヒドロキシアパタイト顆粒による顎骨欠損部補填の実験的研究

——人工血管 (EPTFE) チューブによる埋植部の形態維持について——

竹 中 一 哉

人工生体材料であるヒドロキシアパタイト (HA) 顆粒の形態維持材料として、延伸ポリ四フッ化エチレン-EPTFE- (expanded polytetrafluoroethylene) 人工血管チューブを、ゼラチンカプセルとともに応用した。形態計測の結果では、EPTFE チューブはその形態を良好に維持し、またその内部において、HA 顆粒を良好に保持していた。組織学的には、EPTFE チューブ固有の気孔内に新生骨組織の侵入を認め、その結果、骨と人工血管が、骨性癒着の様相を呈していた。

(本号 33 頁) (藤岡幸雄記)